

## 令和5年度幼稚園学校評価（川跡幼稚園）

| 分野        | 評価項目             | 評価の着眼点   | 自己評価   |    | 学校関係者評価 |   | 評価結果を踏まえた今後の取り組み |
|-----------|------------------|--|--|----|---------|---|------------------|
|           |                  |  | 達成及び取組状況   | 評価 | 評価      | 評価  |                  |
| 教育課程・指導   | ①学年・学級経営         | 教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。                          | ○年度当初、園長は、職員と保護者に教育目標について説明を行い、担任は、学年の努力目標を決め、保育、基本的生活習慣、家庭との連携、人権同和教育等について重点事項や援助について明確にしていた。4月の学級懇談時に保護者にも学級経営の方針について説明をしている。  | 4  | 4       | ○保育実践後は、日、週、月で振り返り、翌日から子どもが意欲的に遊びや生活に向かえるような援助、環境構成について準備をする。そのことを、学級内で共有する。<br>○教育課程は、実践をもとに、今一度見直しを図り、次年度につなげていく。   |                  |
|           | ②幼児理解            | 教職員は、一人一人の幼児の発達のか姿から課題を捉えて保育を行っているか。                   | ○担任は、子どもの興味関心や発達を捉え、記録等を基に、月案、週案を作成し、補助教諭に配布し保育計画を共有している。○全職員で園児の育ちを見守り、必要に応じて報告、連絡、相談をしたり、日常的に園児の様子を話し合ったりしながら保育にあたっている。○家庭とも連携を図り(面談、連絡帳等)、保育に活かしている。                                | 3  | 4       | ○子どもが表す言動から、内面を読み取り、大人のかかわり方について考え、工夫していく。信頼関係構築に努める。(観察、記録、援助の工夫等)<br>○多面的に幼児理解をするために、職員間でもっと日常的に幼児のか姿を語り合うように努める。   |                  |
|           | ③特別支援教育          | 特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。            | ○保護者との面談等も通して、幼児の実態把握をし、幼児が安心して園生活を送れるような援助について、園内で協議している。よりよい援助のあり方について市の巡回指導や療育等関係機関と連携を図っている。補助教諭や幼稚園ヘルパーは、市の指導員等による研修会に参加し情報や知識を得ている。学級内でも担任と補助教諭の連携を密にしている。                       | 3  | 3       | ○子どもが安心して楽しく園生活が送れるように、実態をありのまま受け止め、必要な援助や環境について、学級内(保育補助教諭)で話し合ったり、園内や関係機関と協議したりしていく。○早期支援に向け、市の巡回訪問や相談の機会を通して、幼児早期発達相談員への相談、連携を引き続き密にしてい。専門的な知識を増やせるように積極的に研修に参加する。 |                  |
|           | ④人権・同和教育         | 教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。              | ○今年度は、自らの人権感覚を磨き、温かい眼差しをもつ教職員集団、語り合える風土形成に向け、「まかほくーく」として子どもを語る会を設けている。多様な見方、考え方に触れ、自分の考えのみに固執しないようにする。○塩治集会所、中央集会所での研修、市役所本庁での経験年数に応じた研修に出席し、情報や知識を得て、人権意識向上にむけ努めている。                  | 3  | 4       | ○園長は、人権・同和教育について課題意識をもって生活するよう職員への啓発に努める。職員自らの人権感覚磨きに努める。(保育の振り返り、研修への参加など)○川跡コミュニティセンターの川跡地区人権同和教育推進協議会との共催で、保護者研修会を行う。子どもにかかわる大人の人権感覚を高めていく。                        |                  |
|           | ⑤行事              | 教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。                      | ○子どもの興味関心を捉え、子どもが主体的に取り組み、意欲的に進められるように、子どもとの話し合いや振り返りを重ね、活動を通して経験を広げたり喜びや自信につながりすることができるよう工夫した。○コロナの第5類移行後、行事の在り方を検討し、感染対策に留意しながらも子どもの育ちを保障できるように工夫して実施している。                           | 4  | 4       | ○興味関心を捉え、子どもの主体性を尊重した保育を実践していく。そして、行事のねらいを明確にし、内容の検討をし、子どもの育ちを支えていくようにしたい。保護者には、行事に向かう過程を通して育つ心情・意欲・態度について便利などで発信していく。  |                  |
|           | ⑥保幼小連携           | 近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。                        | ○小学校の校庭利用、北陽小学校校長講演会、校長様絵本読み聞かせ、年長児と1年生の交流会など、可能な交流から実施した。年中児発達相談事業(育ちの応援シート)を年中児保護者対象に行い、小学校と共有している。○同じ校区の鷹巣幼稚園と登山等を通して交流ができた。○三小校区一斉取り組み生活習慣確立のための「元気もりりチャレンジ」を実施。三小3年生との授業での交流も図った。 | 4  | 4       | ○鷹巣幼稚園との交流は次年度も事前事後に協議しながら有意義な交流にしたい。近隣の保育園園との交流についても、互恵性のある交流内容について検討していく。<br>○保幼小交流の日では、各教室などを見学する機会があり、小学校への期待感を高める機会となった。   |                  |
| 家庭・地域との連携 | ⑦家庭・地域との連携       | 幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。                    | ○愛育会や白鳥クラブ等の保護者会組織と連携し、園経営を進めている。○川跡地域の豊かな自然の中での直接体験、感動体験が沢山できるように、家庭や地域と連携している。そのことが、園内の充実した遊びにも発展した。○未就園児教室ひよこ学級を、年7回実施。ホームページや地域回覧等で周知し、子育て支援を行っている。                                | 4  | 4       | ○PTA活動、行事への参加がしやすいように工夫していく。<br>○地域の方に協力を求め、連携しながら充実した体験活動ができるように工夫する。<br>○幼稚園教育のPRの仕方を工夫し、幼稚園入園に結びつくようにする。   |                  |
| 研修        | ⑧研究・研修           | 教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。 | ○研究主題(2年次)で、昨年度の実践をもとに、子どもが夢になって遊ぶための教師の援助のあり方を見出していくために、職員同士の語り合う場「スマイルワーク」を継続した。互いの保育を見合い、子どもの姿を多面的に捉え、意見交換をし、保育技術や保育観を広げていく機会とした。県内、市内幼稚園研究会開催の保育研究会に積極的に参加した。                      | 4  | 4       | ○年度末には、研究の取り組みについて、各学年の実践事例から省察し、来年度に向けて修正をしていく。<br>○引き続き、職員の資質向上のために、保育幼稚園課幼児教育指導員による指導助言を受けられる機会を設けたり、積極的に研修会に参加し、その内容を、全職員が共有できるようにする。                             |                  |
| 組織運営      | ⑨園務              | 教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。                          | ○期限を意識しながら、文書作成や会計処理等の担当業務を行っている。○職員に、毎週(木)終礼には、次週のスケジュールを配布、周知し、計画性をもち、業務にあたるようにしている。<br>○月末、学期末、年度末の機会には、園務の進捗等について確認している。   | 3  | 3       | ○引き続き、園内の週報を作成し、各自がスケジュール確認をしていく。期限を意識し、速やかに相談、処理等を行っていく。職員間で声を掛け合い、計画的、協力的に行っていくようにする。   |                  |
| 安全管理・保健管理 | ⑩危機管理            | 園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。           | ○年度当初、協議し、防災計画や危機管理マニュアルを作成し、職員一同共通理解を図っている。緊急連絡先の確認を行っている。<br>○給食やアレルギー、怪我の対応についても、養護教諭を中心に情報共有をした。年度当初に、心肺蘇生(AED使用)について職員研修の場を設けた。   | 3  | 3       | ○年3回の避難訓練、引渡し訓練、防犯教室、職員対象不審者対応訓練等を振り返り、反省事項を次年度の計画に活かせるようにまとめる。<br>○危機管理マニュアル、防災計画など、実践から見直しが必要であれば協議し、来年度に生かす。   |                  |
| 教育環境整備    | ⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備 | 園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。               | ○毎月1回、園舎内、園庭等を複数の目で安全点検をしている。安全点検表を改善し、同じ箇所を経過が分かるようにした。また、日常生活の中でも異状があれば、市の担当課や業者と連携し、速やかな修繕につなげている。<br>(トイレ扉、パーゴラ塗装、遊具消耗部分、サッシ部品など)  | 4  | 4       | ○引き続き、毎月1回「安全の日」で、複数の目で施設内、外の点検を行う。必要に応じて、市の担当課に相談し、迅速に修繕するようになる。   |                  |

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する